

## 令和5年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立東蒲中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・小テストや復習を定期的に行うことで、知識・技能の向上と基礎的・基本的な計算技能の定着を図ることができた。
- ・習熟度別の少人数クラスにより、発達段階に応じた授業展開を意識している。その結果、他者の考え方を大事に、主体的に基礎の定着を図ることができた。

#### (2) 課題

- ・領域を超えた問題を苦手とする生徒が多い。特に関数の問題において、図形分野や日常生活と関連させた問題にふれる機会を多く設定する必要がある。
- ・数学に対して、苦手意識をもつ生徒が多い。問題の難易度を生徒に合わせ、できる経験を味わわせる小テストや単元テストを行う必要がある。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	前年度より1ポイントほど上昇したが、区の平均より3ポイントほど下回っている。	/	/
第2学年	前年度より、2ポイント正答率が上昇したが、区の平均より5ポイントほど下回っている。	前年度より、2ポイント下回っていて、区の平均より4ポイント下回っている。	/
第3学年	前年度より6ポイント下がり、区の平均と比べても10ポイント下回っている。	前年度とほとんど変わらないが、区の平均と比べたら、9ポイントほど下回っている。	前年度より3ポイント上昇したが、区の平均より4ポイント下回っている。

#### (2) 分析（観点別）

##### ① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を2ポイント上回っている。整数の性質の問題が目標値を大きく上回る。小数の計算の正答率は低い。	目標値を1ポイント上回っている。場合の数の問題で目標値を大きく下回った。	目標値を2ポイント上回っている。平面図形やグラフの読み取りの問題で目標値を上回っている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を2ポイントほど下回っている。1次方程式の問題で特に正答率が低い。データの散らばりと代表値の問題では目標値を大きく上回っている。	目標値を1ポイントほど上回っている。空間図形やデータの散らばりの問題で目標値を上回った。	目標値をわずかに下回っている。比例のグラフをかく問題で目標値を下回った。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を7ポイント下回っている。連立方程式の問題で目標値を7ポイント上回っている。図形の性質の問題は目標値に全く届いていない。	目標値を10ポイント下回っている。証明の問題で大幅に目標値を下回っている。	目標値を7ポイント下回っている。1次関数の問題で目標値を大きく下回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
演習問題に取り組みせることで、基礎的な計算技能を向上させる。数学的な用語を積極的に授業中に用いる。	記述した内容をもとに自分の考えを説明し他者の説明を聞く活動を行って、数学的に表現する力を伸ばす。	デジタル教材の視認性や直感的な操作性を活用して、主体的に学習に取り組む態度の向上を図る。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テストや単元テストを活用して、知識・技能の定着を図る。繰り返し演習問題を行うことで、技能を高め、定着を図る	なぜ、どうしての質問を織り交ぜながら説明・発表活動の授業展開をしていく。理由や考え方などをテストやプリントなどで表現する機会を増やし、数学的に表現する力を伸ばす。	小テストを行うことで、達成感を持たせ、デジタル教科書等のICTを活用し主体的に学習に取り組む態度の向上を図る。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テストを活用して、知識・技能の定着を図る。演習問題を多く解かせることで、技能を高める。	記述した内容をもとに自分の考えを説明し他者の説明を聞く活動を行って、数学的に表現する力を伸ばす。	デジタル教材の視認性や直感的な操作性を活用して、主体的に学習に取り組む態度の向上を図る。